

発電部門の発電電力量当たりの費用について

2023年3月24日
中国電力株式会社

発電部門の発電電力量当たりの費用について

- 発電電力量当たりの費用が、2021年度実績よりも原価算定期間平均が高くなっている要因については、固定費が160億円程度増加したことによります。人件費などは低減を図れておりますが、修繕費の固定費が270億円程度増加したことが大きく影響しております。
- 修繕費について、当社においては実績である部門別収支と申請原価では、固定費と可変費の配分が下表のとおり異なっており、いずれも適正に算定を行った結果によるものですが、算定する目的の違いにより固定費でみると大きな増加影響が生じております。

【部門別収支と申請原価の固定費・可変費の配分の主な相違点】

	部門別収支（2021年度実績）	申請原価
火力・原子力 修繕費	現行料金（2008年改定）の考え方にに基づき 固定費と可変費に配分	修繕費を個別積み上げ算定していることを踏まえ 原則、固定費に配分 (火力発電費のうち環境対策費は可変費に配分)

(億円)

	2021年度実績			原価算定期間平均			増減		
	固定	可変	計	固定	可変	計	固定	可変	計
人件費	269	14	284	188	6	195	▲81	▲7	▲88
修繕費	187	187	374	454	28	483	267	▲158	108
委託費	234	10	245	222	6	228	▲12	▲4	▲16
その他※	178	24	203	167	18	185	▲11	▲6	▲17
合計	871	237	1,108	1,033	60	1,093	162	▲177	▲14

※その他…消耗品費、普及開発関係費、養成費、研究費、諸費、固定資産除却費、建設分担関連費振替額(貸方)、附帯事業営業費用分担関連費振替額(貸方)、
開発費、同償却

(参考) 発電部門の費用について

- 2021年度実績と原価算定期間平均を固定費と可変費をあわせた費用全体で比較すると、原子力の再稼働・運転等に伴う修繕費の増加はあるものの、経営効率化の取り組みなどにより申請原価の低減を図っております。

2021年度実績と原価算定期間平均の増減比較

(億円)

	2021年度 実績	原価算定 期間平均	増減
人件費	284	195	▲88
修繕費	374	483	108
委託費	245	228	▲16
その他※	203	185	▲17
計	1,108	1,093	▲14

〔修繕費の主な増加要因〕

直近5年間にない安定稼働に資する施策を織り込んだ計画としたことで、過去実績に比べ増加しています。

➤ 安定稼働に資する施策

原子力関連の点検および、近年の設備運用の変化に対応した火力・水力設備に係る諸施策によって、設備の信頼性を高め、安定稼働による供給力の確保とともにトラブル対応費用の抑制を図るもの

(億円)

原子力の再稼働・運転に必要な点検	50
至近の運用状況を踏まえた 火力・水力の安定稼働に資する施策	10

※その他

消耗品費、普及開発関係費、養成費、研究費、諸費、固定資産除却費、建設分担関連費振替額(貸方)、附帯事業営業費用分担関連費振替額(貸方)、開発費、同償却